

**製品名:** PHD2/プロリルヒドロキシラーゼウサギモノクローナル抗体

**カタログ番号:** AMRe83982

研究使用のみ

## 概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.68mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質、50% グリセロールを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000,IP 1:20-1:50
分子量	46 kDa

## 抗原情報

遺伝子名	PHD2/prolylhydroxylase
別名	EGLN1; C1orf12; EYCT3; HIFPH2; HPH2; PHD2; SM-20; SM20; ZMYND6;;PHD2
遺伝子 ID	
SwissProt ID	Q9GZT9
免疫原	ヒト PHD2 由来の合成ペプチド

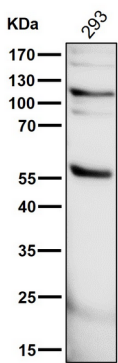
## 背景

細胞内酸素センサーであり、常酸素条件下で低酸素誘導因子（HIF） $\alpha$ タンパク質中の4-ヒドロキシプロリンの翻訳後形成を触媒す

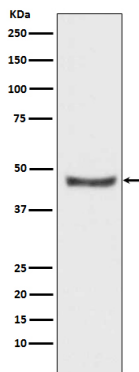
る。HIF1Aの酸素依存性分解(ODD)ドメイン(N末端NODDおよびC末端CODD)それぞれに存在する特定のプロリンを水酸化する。また、HIF2Aも水酸化する。HIF1AとHIF1Bの両方において、CODD部位を優先的に水酸化する。水酸化されたHIFは、フォン・ヒッペル・リンドウユビキチン化複合体を介してプロテアソーム分解の標的となる。

## 研究分野

## 画像データ



すべてのレーンでは、抗体を 1:2K 希釈で室温で 1 時間使用します。



SH-SY5Y 細胞溶解物中の PHD2 / プロリルヒドロキシラーゼ発現のウエスタンブロット分析。